国立国会図書館　タイトル『恵心僧都絵巻』　請求記号 亥二-40

恵心僧都繪巻

全

亥二
40

国立国会図書館　タイトル『恵心僧都絵巻』　請求記号 亥二-40

亥二
40

国立国会図書館　タイトル『恵心僧都絵巻』　請求記号 亥二-40

夫れ十方三世乃諸佛金口の一音所生也
和了名別なりといへとも所得乃旨理
一致なり仰吾山は是
極武皇帝の敕願傳教大師也草創也

国立国会図書館　タイトル『恵心僧都絵巻』　請求記号 亥二-40

夫れ十方三世乃諸佛金口の一音扁せれ
給ふ各別なりといへとも所得乃旨理
一致なり仰吾山は是
極民皇帝の嚴顔傳教大師は草創也
法燈代々上より明光を八地よりや
玉乃義中興慈恵大師叡山佛法乃殿
なむとて欲て京上し慈覺の僧侶六十人
を撰て学問を法華小乗中よ
達せる人十人なを十人体性撰をれ
事ならん恵心檀那女人也志ろ小恵心菩せ
薩生ける小我を檀那より西方ならん天下二雙
乃学匠なり自然智得と思志水岡指れ
法文殊の五十万及なと行ち出家稚よ
求附法らくおもはく是授ひくのうち人
乃情て才智代来事仏法をはなと叶

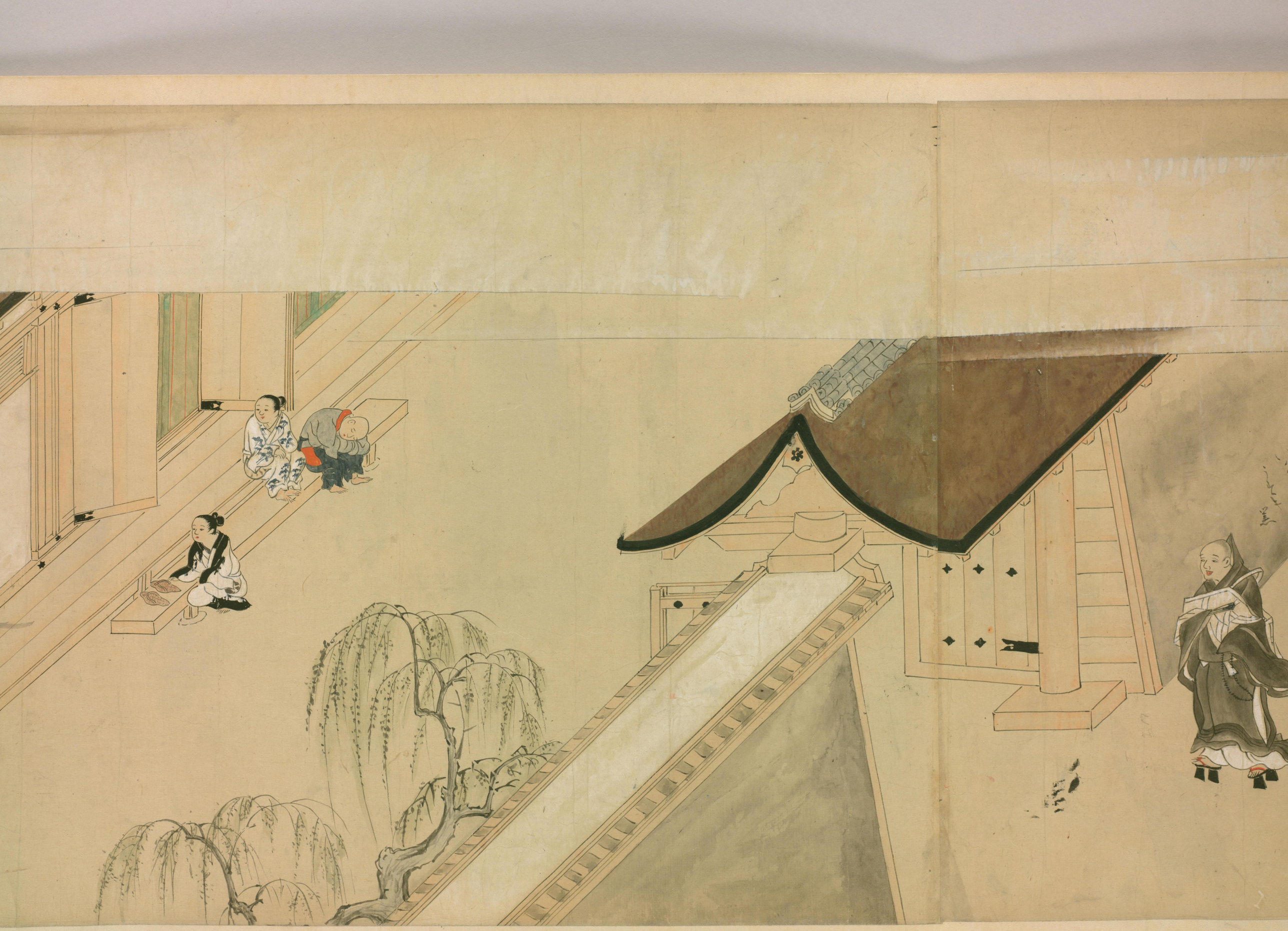
国立国会図書館　タイトル『恵心僧都絵巻』　請求記号 亥二-40

法文殊の四十万及なと行ち是言葉と
成時はちらくおもはくの事を推はかるの事人
ち情て才智は来事仏をはなと叶
ち物を其と我を慢の智恵は得ぬ事ち
ぬ事を今世ふいるちくのあるし電光朝露
乃命なる人ハ明ち仏教を聞て唯逸楽と
為ふ事れふは身心費ちと須臾の間
ち一切の智恵を得ん為ふ志れハ世を倫
ふ後世ち物を捨て仏教ち学ぶ
心身ち捨ておこるわきを財宝中ち貴なる
ち者を法今時ち言ち智恵を得と

国立国会図書館　タイトル『恵心僧都絵巻』　請求記号 亥二-40

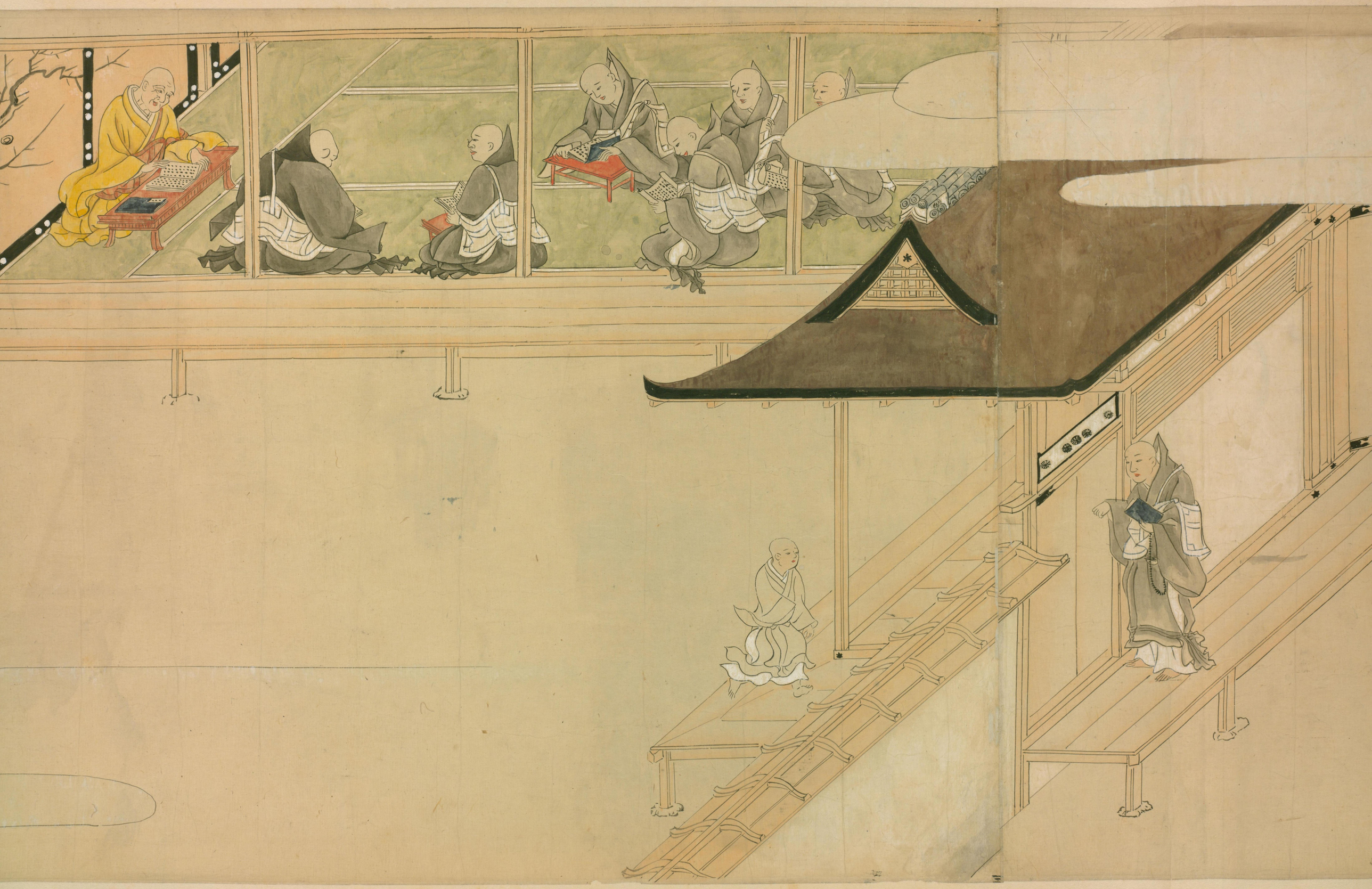
国立国会図書館　タイトル『恵心僧都絵巻』　請求記号 亥二-40

国立国会図書館　タイトル『恵心僧都絵巻』　請求記号 亥二-40

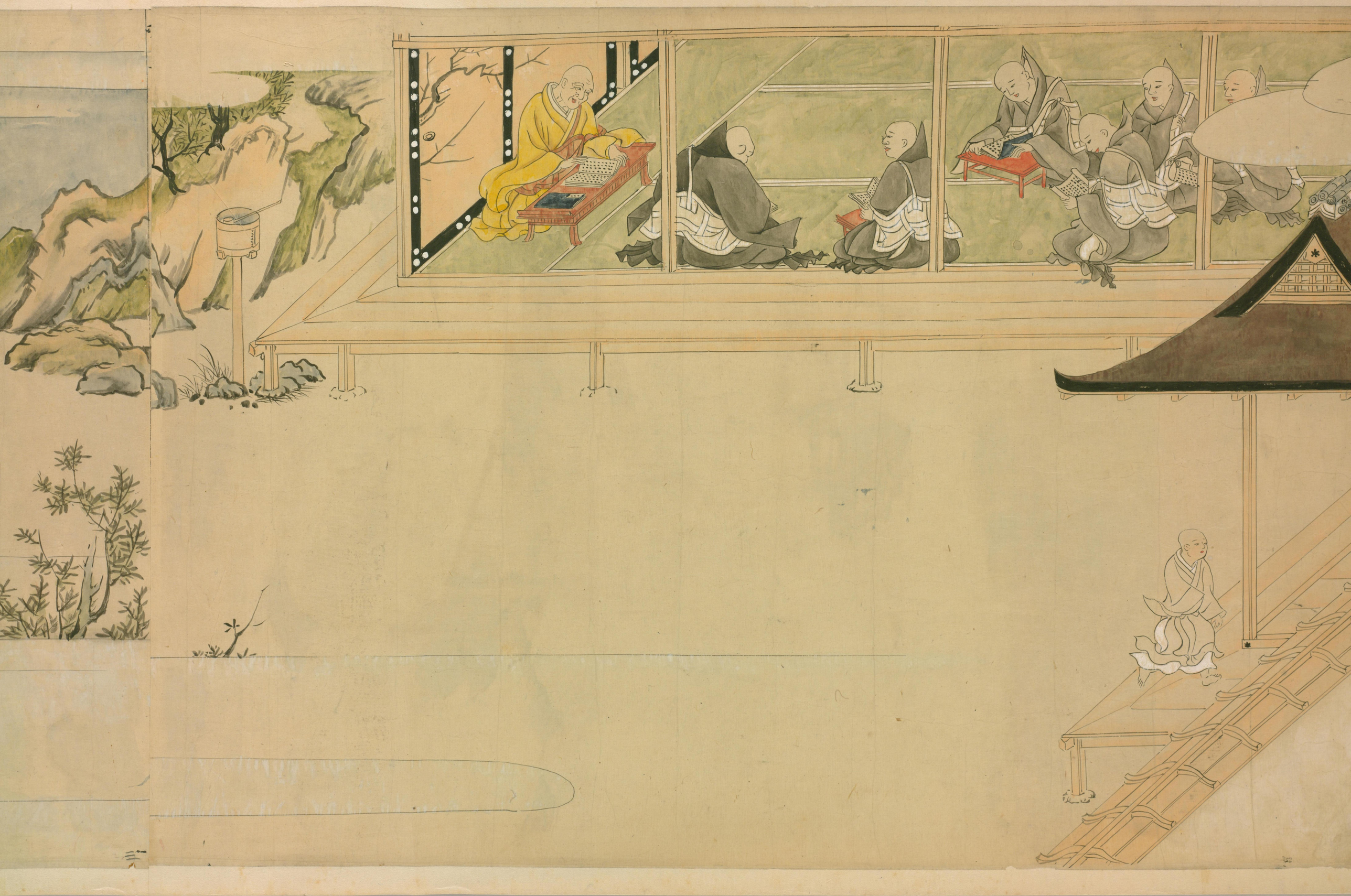


国立国会図書館　タイトル『恵心僧都絵巻』　請求記号 亥二-40

国立国会図書館　タイトル『恵心僧都絵巻』　請求記号 亥二-40



国立国会図書館　タイトル『恵心僧都絵巻』　請求記号 亥二-40



国立国会図書館　タイトル『恵心僧都絵巻』　請求記号 亥二-40

恵心僧都自そさ毋ぐ持給へる志は
世〻思い入ることかたはさ無世界にて
おく

国立国会図書館　タイトル『恵心僧都絵巻』　請求記号 亥二-40

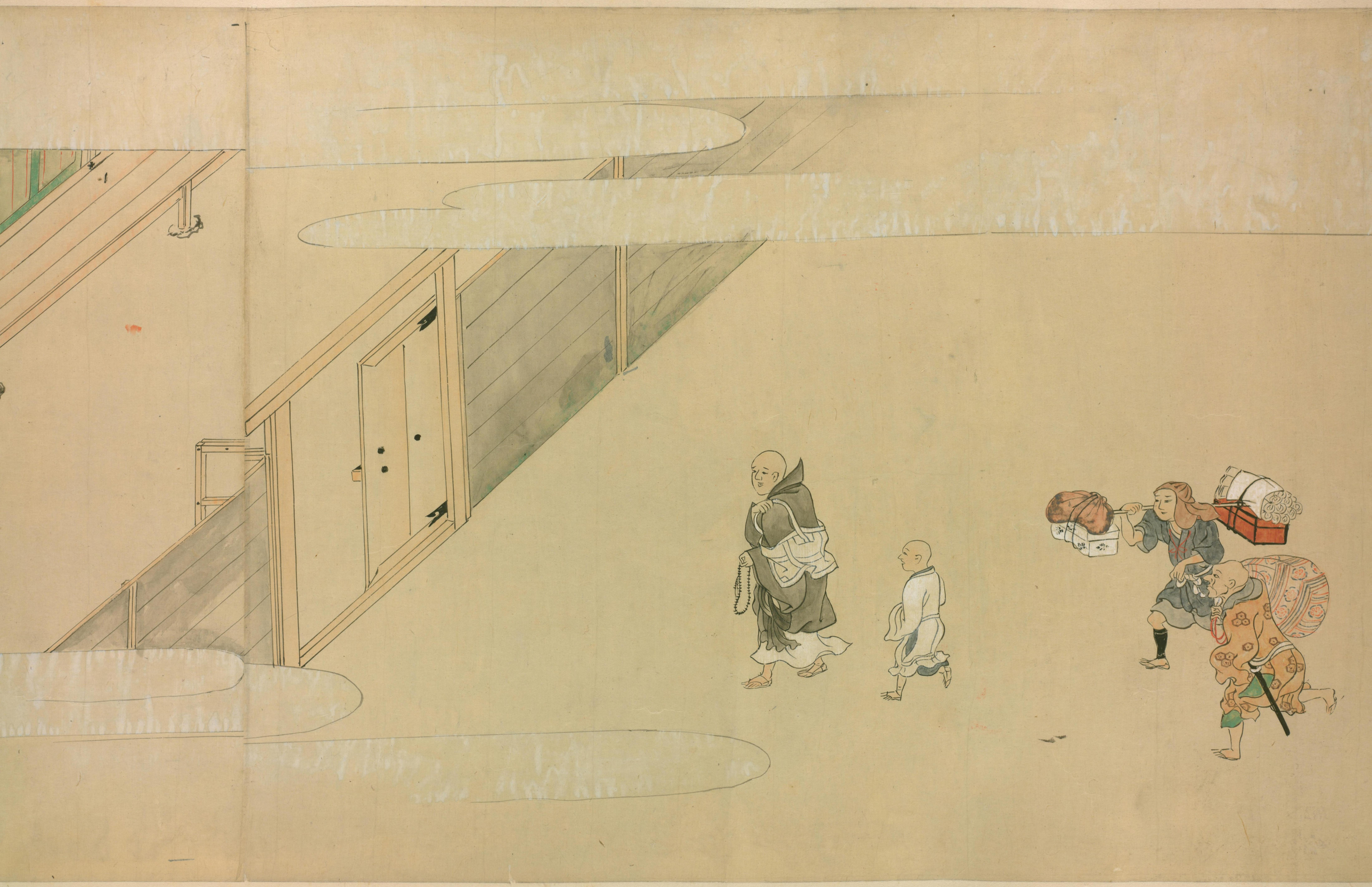
恵心僧都自ら生さ母代持給へる志は
殊に深いとも申かたはなし母君をもておく
ら系わ孝するこもなくて母給ける程よ
あるとも子ふ導師よ請をも給て葬送をと
おほく所給ものを受れ共恢をもたる法
もとへ陀羅尼法花経をこの母何よ長給はん
ものと思ひ給て財寶をうちみくるまを
れハ四位義をもたるあるわ系と
れ系ふ給よとぼわ何をて母の公法師子
物をは我母をもすべきとこ世
貧もく おろ元ふ ふたやよ
代乃をを御へきをは愛みと思ハとわ給と
て

国立国会図書館　タイトル『恵心僧都絵巻』　請求記号 亥二-40

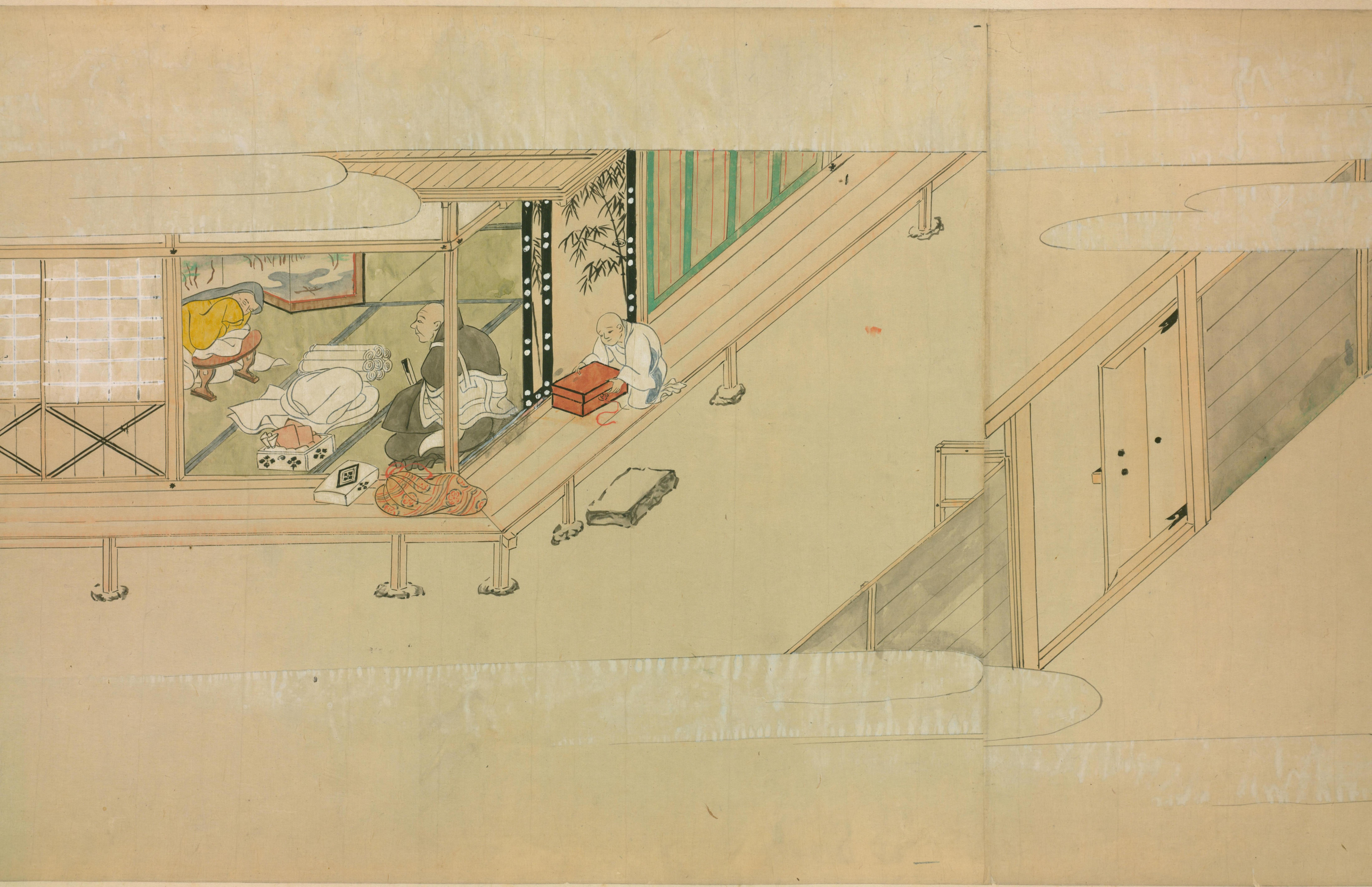
おほく所領をとられたる恨をむすびて法
もん院をたをかこの母何よ長谷ハいん
をもとも思ひたり山財宝をうちみくるを
なれハ四条殿義をたをすあまれ系と
ハたをかをとはるわ行をして母の云法師子ぞ
物ハ我ハ世をもするべきとこ世
ゆもしくおもへしかたやうる地獄の業
ぞ身をあへきをハ後ハ夏ハ思ハさるわ法と
きみ世こう法乃橋ハ世ハ世ハ
世わ法人なるなり 歌
ハ世ハ世ハ世ハ世ハ世ハ世ハ世ハ世ハ僧都
はなをハ数ハ法ハ法ハ法ハ法ハ法ハ法ハ

国立国会図書館　タイトル『恵心僧都絵巻』　請求記号 亥二-40

国立国会図書館　タイトル『恵心僧都絵巻』　請求記号 亥二-40



国立国会図書館　タイトル『恵心僧都絵巻』　請求記号 亥二-40



国立国会図書館　タイトル『恵心僧都絵巻』　請求記号 亥二-40

恵心僧都檀那北僧都相議して
玄書寫上人こいねがひ知なるものをうつす

国立国会図書館　タイトル『恵心僧都絵巻』　請求記号 亥二-40

恵心僧都檀那北僧都相議しく
云書寫上人こいねがわ知なる物をとろ川
乃人若貴ゑ小いさ我等紛て法門を
ゆくゆくはめてみむと云て二人相伴なかて
住果の縁覚を佛所へいき未成否といね
論儀をしけをとをかを書寫の上人
きて信くおりめへを住果乃縁覚い未成
未後至ては玉体をたてして用事ゆを
次ぬ答られをはるふ二人かをたはまち
て古代ゆきをは道心者乃をなをは
恵心源をかゝるめと人の命北空常為
事且善知かをゝ云れい我身の浄ちへ

国立国会図書館　タイトル『恵心僧都絵巻』　請求記号　亥二-40

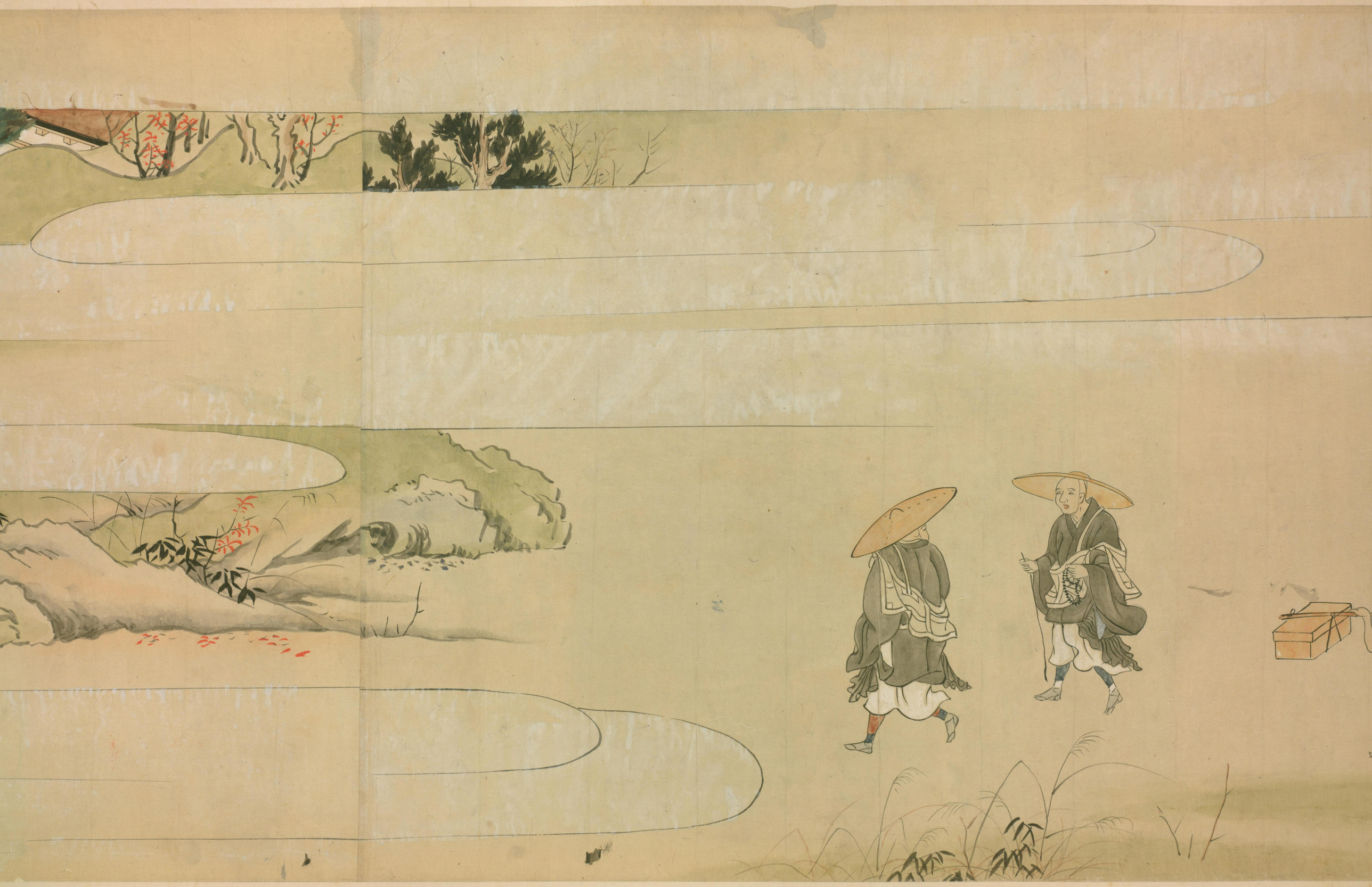
云書寫上人こいねがひ知なる物をうけ
乃人若貴ゑ小ゝ我等彩て法門を
ゝくためてみむと云て二人相伴くゝ
住果の縁覚を佛所へいき未武否といね
論儀をしけそを寫と書寫の上人
きて信くゝ如りめへを住果乃縁覚い来ば
来後至ては心地にして用事ゝ
次ゝ答られをけるゝ二人かをたまり
て武ゝ法さを道心者乃ゝ生なるは
恵心源をかゝるゝ人の命ゝ常ゝ
事且暮知かをゝ云れい我身の浄ちへ
西ゝ乃のまゝるゝ此事を生くゝ云
沙法を色ゝ寫ゝ行ふて大論ゝ云
如人炎火色ゝ俱起ゝ何安處其内
諸説餘事此中佛説聲聞辟支佛事
形為無益之言何況余事式ゝ式の

事且著和かなれい我身の浄ちへ
西方のまつりめの此事を聞くなれ云
沙汰を面白かり事こそ侍ふなれ大論に云
如人炎火を見て俱起る何安慮其内
諸説餘事此中佛説聲聞辟支佛事
形為無益之言何況余事式之式のの
道理なく思合行くに其ちと後いなく論
儀式擇をはかりなくて偏ふなせ乃勤を
ちを面ひなり加之教住房云後世者の法
門を紙一枚書面なりなを文明遍云
後世者乃法門を義い浅なを志の深の所
面き也といつり又法然上人云念佛者
法門をやうなをやうをすを川永の
持言なと

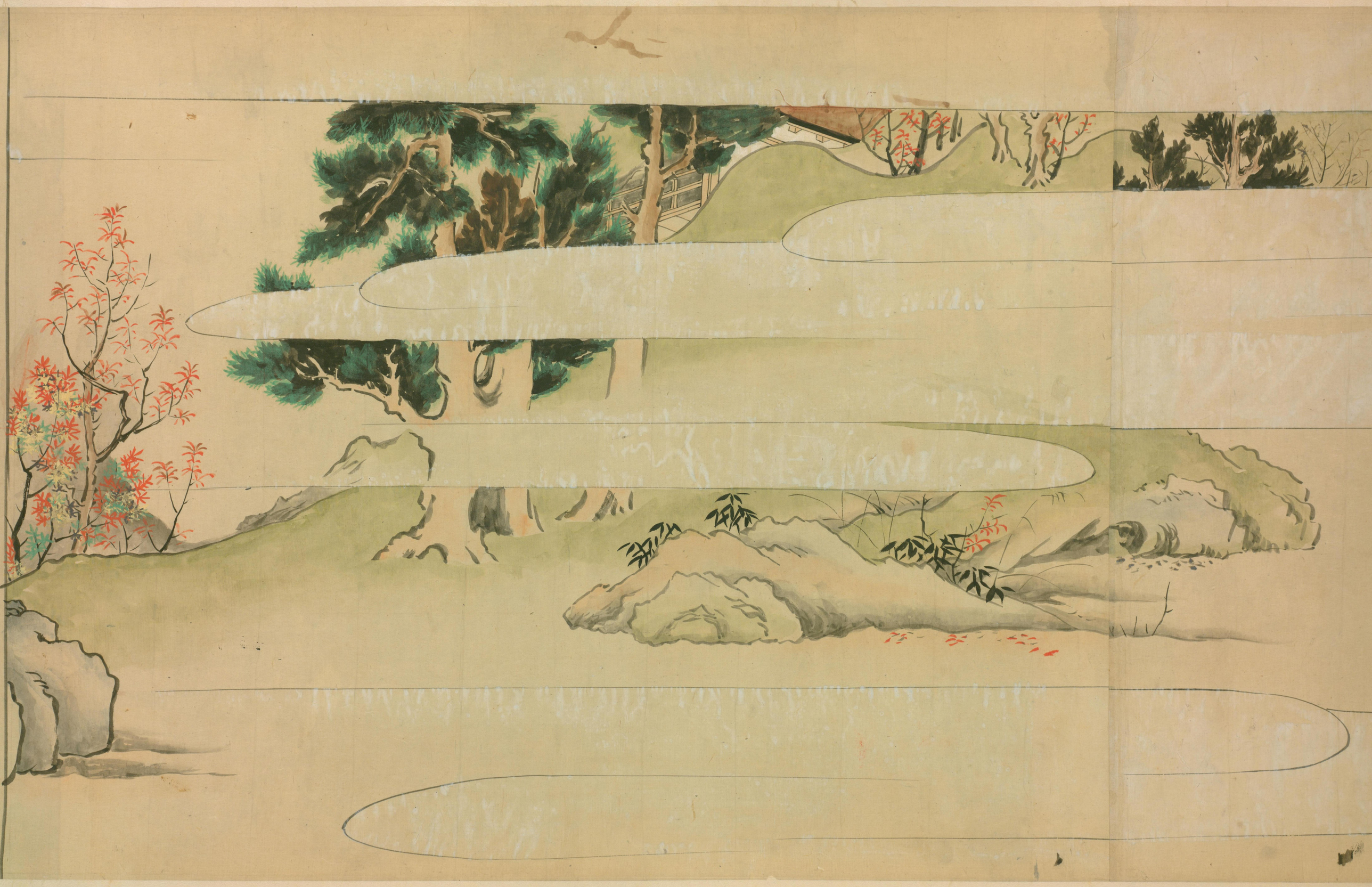
諸説餘事此中佛説聲聞辟支佛事
形為無益之言何況余事式之式の
道理なと思合すくしたる後いかゝ論
儀式擇とは法花経の勤を
たゝ南無阿弥陀仏教住唐土云後世者の法
門を紙一枚毋色なとは文明遍云
後世者は法門を義い浅ゆえ志の深ゆ
毋きなといつり又法然上人念佛出
法門をやうなをやうをすれ祢の
持言なと

国立国会図書館　タイトル『恵心僧都絵巻』　請求記号 亥二-40

国立国会図書館　タイトル『恵心僧都絵巻』　請求記号 亥二-40



国立国会図書館　タイトル『恵心僧都絵巻』　請求記号 亥二-40



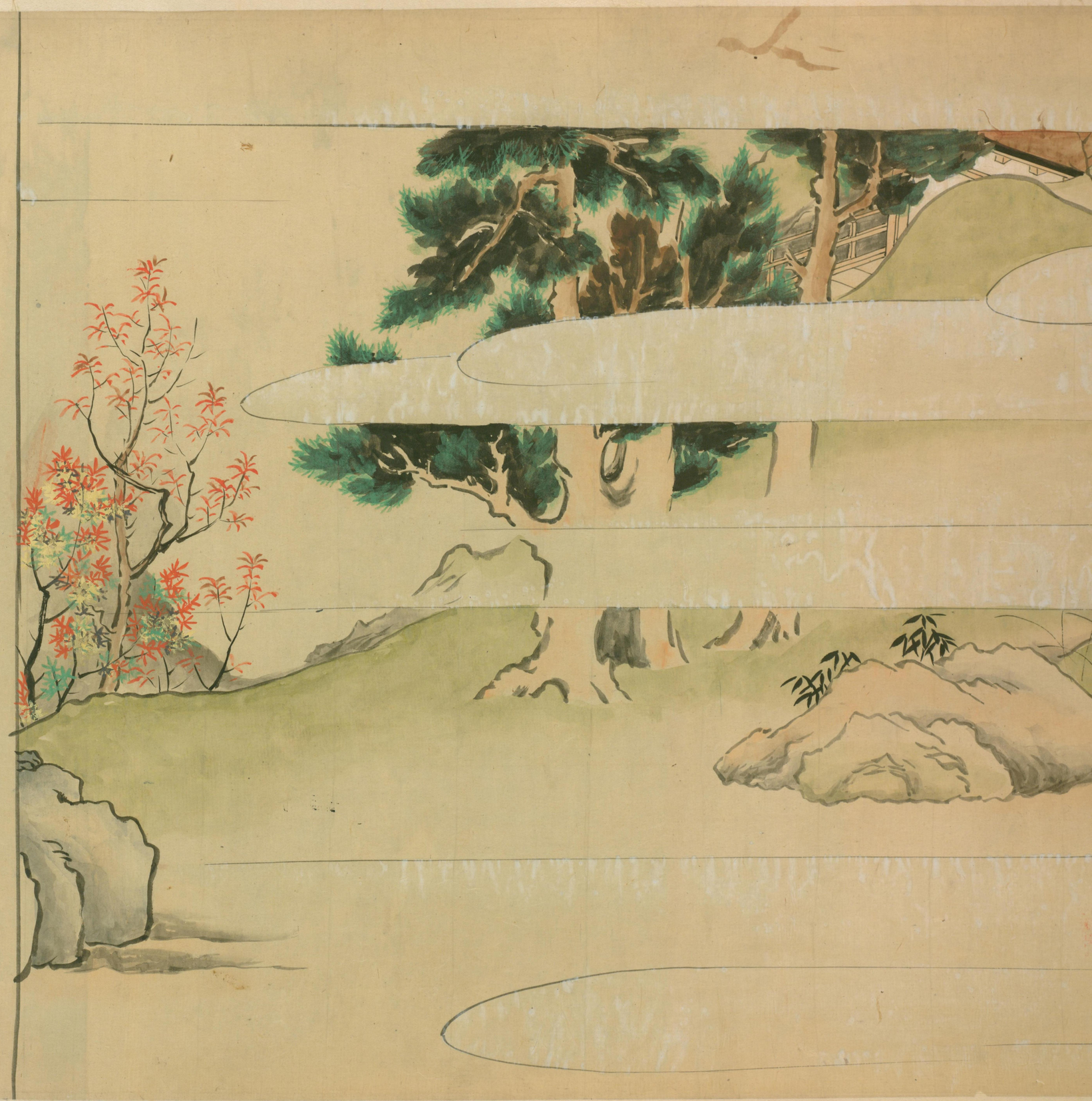
国立国会図書館　タイトル『恵心僧都絵巻』　請求記号 亥二-40

筆者

一陜 公勝て 清水谷

二陜 行後に 世尊寺

三陜 雅縁て 元多丹



国立国会図書館　タイトル『恵心僧都絵巻』　請求記号 亥二-40

筆者

一院　公勝〻　清水谷

二院　行俊卿　世尊寺

二院　雅縁〻　元房丹

應永八年三月廿三日

国立国会図書館　タイトル『恵心僧都絵巻』　請求記号　亥二-40